

太平洋島嶼国留学生会議の結果

2009年5月20日、笹川太平洋島嶼国基金主催「太平洋島嶼国留学生会議」が東京において開催された。本会議は、太平洋島嶼国研究者フォーラム（Pacific Island Researchers Forum：“PIRF”）の呼びかけにより、日本各地の大学に点在する太平洋島嶼国出身の留学生が初めて一堂に介する場となった。以下の議論が行われ、提言がまとめられた。

■ 異文化への適応

留学生の共通体験として、自国とは異なる言語、ライフスタイル、文化的信条、宗教、政府規制、教育システム等について学ぶ必要性とともに、初期段階に経験するホームシックや孤独感は一定期間で薄れ、自然に新しい環境に順応していくことが挙げられた。また、滞在国を問わず、自らの責務に集中し、全うすることが重要であり、異文化社会での経験は、帰国後の職業を左右したり、職務遂行に役立つものとなることが話し合われた。

■ 太平洋島嶼国留学生間のネットワーク構築の必要性

学生レベルのネットワーク構築の必要性が確認され、学術面および日本での生活全般に関するプラットフォームとして機能させるため、PIRFのウェブサイトを立て上げ、日本各地に点在する太平洋島嶼国留学生の情報交換を実現するとともに、一般の日本人に対して、太平洋島嶼国が直面する環境問題等に関する関心を喚起するツールとして活用することが提案された。ウェブサイトにより、太平洋島嶼国やその他地域の大学の既存の研究者フォーラムとの連携、および日本人研究者と太平洋島嶼国の研究者との連携を図ることが可能となる他、留学生の研究論文を発表する場として活用することができる。

また、PIRFが広く文化活動を行い、日本社会に向けて太平洋島嶼国留学生を紹介することにより、留学生が日本のホスピタリティを体験する場（ホームステイ等）を広げる等の提案がなされた。

■ 提言

- 持続可能なネットワークの構築
- 日本人に対する太平洋島嶼国の文化・教育等に関する関心の喚起
- 留学生による太平洋島嶼各国とのリエゾン（要請に基づく）
- フォーラムの設立（ニュースレターの発行やウェブサイトの運営等）
- 留学生のデータベース化（オープンソースとして）
- 同窓会組織の立ち上げ
- 太平洋島嶼国関連の活動へのPIRFの参加（太平洋諸島フェスタ等）
- 各種交流やNGOとのダイアログ等に対し、太平洋島嶼国留学生会議またはPIRFが担い、民間の連絡機関としての役割（要請に基づく）
- PIRFを通じた太平洋島嶼国留学生会議による、PALM5に向けた、奨学金を含む高等教育への支援等に関する検討
- 以下の3点に関する研究や事業開発が行われ、広く一般に提言がなされること
 - (1) 農業振興に注力した経済成長
 - (2) 再生可能エネルギーおよび水の供給に注力した持続可能な発展
 - (3) 学部レベルの大学留学の拡大による人的交流

■ PALM 5 でのアピール

2009 年 5 月 22 日～23 日に北海道トマムにて開催された、第 5 回太平洋・島サミット (PALM 5) に際し、PIRF 代表として Tevita Suka Mangisi 氏がトンガ王国の公式代表団に随行したほか、Visoni M. Timote 氏 (PIRF 代表) および Kunio Suenaga 氏 (PIRF 副代表) が NGO として参加し、PIRF に関する広報活動を行った。

PALM 5 では「北海道アイランダーズ宣言」が採択され、今後 3 年間における 500 億円規模の支援のほか、環境・気候変動問題に焦点をあてた協力、「キズナ・プラン」による人的交流の強化等が表明された。ツバルからは、太平洋島嶼国出身の学部レベルでの留学生数に対する割当が求められた。サミットにおいて、太平洋島嶼国留学生の教育問題に関する発言が見られたことについて、PIRF による提言や広報活動が何らかの影響を与えたと思われる。また、参加首脳より、太平洋島嶼国の開発に関わる NGO 活動に対する支援が述べられ、笹川平和財団の島嶼地域におけるこれまでの活動に関して感謝の意が表されたほか、人的交流の結果として PIRF や太平洋島嶼国留学生会議について触れられた。

PIRF にとっては、サミット会場の展示ブースに参加した NGO や、日本や太平洋島嶼国のメディアとのネットワーク形成を図ることができ、有益であった。フィジーテレビ、読売新聞、朝日新聞、北海道新聞、ザ・フィジー・サン、およびザ・バヌアツ・タイムス等の取材を受けた。

NGO 関係者は PIRF の持つネットワークへの関心が高く、PIRF による太平洋島嶼国に関する情報整理・発信が求められた。NGO 関係者からは、関連団体との連携や人的資源等の支援の申し入れがあり、PIRF に対し、日本人に向けた、太平洋島嶼国の文化や友好的な国民性等に関する周知活動のほか、太平洋島嶼国の人々に対する日本文化に関する啓蒙活動を求める声があった。

PIRF は、太平洋島嶼地域における将来のリーダーとして、日本と太平洋島嶼国との関係強化のために今後も貢献していきたい。